**第２学年３組　道徳学習指導案**

**1 主題名**生きる喜び〔内容項目3―（1）〕

**2 資料名**「ぼく」（出典：教育画劇）

**3 本時の学習指導**

（1）ねらい　生きる喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。

（2）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 主な発問と予想される児童の反応 | 教師の支援 | 時間 |
| 1自分の好きなことや好きなものを思い起こし、発表する。    2「ぼく」を聞いて話し合う。  3自分がいてよかったと思うことについて考える。  4自分への賞状づくりを行う。  ・自分の好きなところやいいところを賞状に書き込み、終わったら班ごとに発表をする。  5賞状を読み合った感想を発表する。 | ○みんなの好きなものや、好きなことは何ですか。  ・ドッジボール  ・友達  ・給食  ・家族  ○「ぼく」の好きなものは、どんなものでしたか。  ・お父さん、お母さん、べス、妹のハルカ、ケンちゃん、ヒロシくん。  ・クロワッサン、お風呂から出たときにはだかんぼうで駆け回ること。  ・海、空  ○「ぼく」の一番好きなものは何だと思いますか。  ・「ぼく」  ・おじいちゃんやおばあちゃん。  ○どうして「ぼく」が一番好きなものは「ぼく」なのですか。  ＜「ぼく」が「ぼく」を好きな理由を読み上げる前＞  ・友達や家族が「ぼく」を好きだと言ってくれたから。  ・得意なことがあるから。  ＜「ぼく」が「ぼく」を好きな理由を読み上げたあと＞  ・お父さんやお母さん、べスやハルカなどみんなに会えないから。  ・クロワッサンを食べれないし、はだかんぼうで駆け回れないから。  ・海も空も見れないから。  ○自分がいてよかったと思うときは、どんなときですか。  ・友達や家族と一緒にいるとき。  ・おいしい食べ物を食べたとき。  ・自分の好きなことをするとき。  ○自分への賞状を作ってみましょう  ○賞状を読んでみて、どう思いましたか。  ・嬉しかった。  ・拍手をしてもらえてよかった。  ・みんないいところがたくさんある。 | ○例として教師の好きなものや、好きなことを挙げながら、児童に問いかけるようにする。  ○好きな理由と一緒に発言するように伝えることで、好きな理由を明確に出来るようにする。  ○「ぼく」の好きなものをイラストを使って視覚化することで、様子や情景を想像できるようにする。  ○P110の「ぼくのいちばん、いちばんすきなものは」で読むのをやめることで、「ぼく」が一番好きなものについて考えることができるようにする。  ○児童の発言に対し、どうしてそう思うか、それは家族や友だちなどよりも大切なものなのかなど問いかけることで、「ぼく」が一番好きなものを深く考えることが出来るようにする。  ○P110の「いちばんすきなものは『ぼく』」の部分まで読み上げ、「ぼく」のことが一番好きな理由について考えることができるようにする。  ○「ぼくがいるから・・・」「ぼくがいないないと・・・」という部分を強調して、「ぼく」が一番好きだと言っている理由を考えやすいようにする。  ○「ところで、きみはなにがすき」という文章から、自分自身の視点へ変えるきっかけをつかめるようにする。  ○日常生活の当たり前のことであっても、自分が生きてる喜びとして見直すことが出来るようにする。  ○自分の好きなところやいいところについて、隣の人や近くの人と教えあい、自分の好きなところを考えやすいようにする。  ○発表を聞いたら心から拍手をするように声をかけ、お互いに認め合い、自分の大切さを感じることが出来るようにする。  ○自分の好きなところやいいところを、他の人に認めてもらう喜びを感じることが出来るようにする。 | 3  10  10  15  5  3 |

**4 備考**　在籍児童数　35名

**5 板書計画**

「ぼく」

「ぼく」の好きなものは・・・

　　お父さんお母さん

ハルカ　　　　　　ベス

　はだかんぼうで　　　　　　海　空

　　　駆け回ること

クロワッサン

一番好きなのは？・・・「ぼく」

　・すきなことができる。

　・ぼくがいるから、みんなに会える。

　・ぼくがいないとつまらない。

　・しょうらいのゆめがある。

◎生きているぼくが一番大切。

ところで、きみはなにがすき。